
二人の恋

Asu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の恋

【Nコード】

N5197Y

【作者名】

ASU

【あらすじ】

新一と蘭。幼なじみ。

この関係が崩されるなんて。誰も思っていなかった。ある美少女の登場で、二人の仲は、引き裂かれていく。

初投稿です。読んでいて変なところがいっぱいあります。多分不定期な投稿になると思います。後、この設定はお互い両思いだけどつき合っていないっていう感じですよ。

プロローグ(前書き)

めちやくちゃくンテロです)* (ノ
それでもいい方はどづど!

プロローグ

「おはよ、新一。」
「はよ」

いつも通り待ち合わせをして学校に行く。

新一と蘭にはそれが当たり前。

この当たり前が崩れることになるとは、誰も思っていなかった。

他愛のない会話をしながら歩く。蘭にとっては、それが幸せだった。

3

園子「蘭！おはよっ！」

学校に着くと園子が走りながらこっちにくる。

蘭「おはよ！園子。」

新一「はよ。」

新一は眠たそうに欠伸をしながら挨拶した。それを蘭は見逃さなかった。

蘭「ちよつと新一！！！！挨拶に欠伸は要らないの！！！」

新一「しゃあねえだろ！昨日、事件だったんだから。」

蘭「どうせ、その後に小説でも読んでたんでしょ？この推理オタク
！！！！」

新一「推理オタクじゃねえ！！！！」

蘭「推理オタクじゃない！！！！新一が推理オタクじゃないなら、こ
の世に推理オタクなんていないわよ！！！！」

またいつもの喧嘩が始まった。それを園子がニヤニヤしながら見て
いる。

園子「朝から夫婦喧嘩ですか。お熱いわね。ラブラブじゃない！

！！！！」

新一「夫婦じゃねえ！！！！」

蘭「夫婦じゃない！！！！」

園子の言葉に二人の顔が真っ赤になる。園子は笑いながら教室に入
っていった。

プロローグ（後書き）

セリフ多いですね。

いや〜新一と蘭も大変だ（笑）

誤字、脱字の指摘、お願いいたします（*^^*）

part 1 (前書き)

祝2回目 やつたあゝ(＊)
()

part 1

しばらくしてホームルームが終わろうとしていた。

先生「今日は転校生がいるぞ〜。」

先生の言葉で、クラスが途端にうるさくなる。そんな中、扉がガラツと開いた。

美夏「里山美夏です。よろしく。」

園子「美女…。」

蘭「わぁ!!!可愛い!!!」

クラスメイトはざわざわする。大半の男子は彼女に見とれている。もちろんこの中に新一は入っていない。そりゃ、蘭一筋なんだから。

7

先生「里山の席は工藤の隣だ。ほら、あそこの。」

美夏「はい。よろしくね工藤君。」

新一「ああ…。」

ホームルームが終わるとすぐに美夏の回りに人が集まる。女子はきやあきやあ言っている。蘭と園子の2人もその中に加わった。

ク「どこから来たの?」

ク「彼氏いる?」

ク「何部に入るの?」

などと美夏は質問責めにあっている。美夏は困惑した様子だった。

美夏「あたし、聖徳太子じゃないから、一気に言われてもわかんないよ?」

美夏の一言で、急に質問責めが止まる。そんな中、園子が質問し始めた。

園子「美夏ちゃん…だっけ?私、鈴木園子!!!園子って呼んで!で、質問なんだけど、どこから来たの?」

美夏「美夏でいいよ。あたしは、米花女子から来たの。」

美夏が大きな声で答える。それと同時にチャイムがなった。

part 1 (後書き)

何かウチの小説ってセリフが多い… (ノ | ;) /

part 2 (前書き)

祝3回目d) | | !

こんな駄文を読んで下ってありがとうございます

ございます(T|T)

美夏目線です!!!

part 2

こんにちは。里山 美夏です。昨日、帝丹高校に転校してきたの！
そこで、隣の席の工藤君に一目惚れしちゃったんだよね… あたし、
惚れっばいから…。

だって、あの名探偵工藤 新一だよ！？新聞で見るよりかっこいいの。

美夏「工藤君、彼女いるの？」

質問攻撃された後の授業で、あたしは聞いてみた。眠そうにこつちを見る。そんな顔にもドキツとするあたしって、バカ？まあ、それはおいといて。質問の答えが凄く気になる。

新一「いねえよ。」

よかった。安心の色が心の中に広がる。あたしは調子に乗って、もうひとつ質問してみた。

美夏「好きな人は？好きな人はいるの？」

新一「いるよ。泣き虫で意地っ張りで、すげえおせっかいな奴。ほら、あっこにいる蘭だよ。知ってるだろ？」

さっきの安心の色が一気になくなる。明らかに嫉妬の色になっている。工藤君、赤くならないでよ…。

さっき工藤君が指を指した方を見る。あの娘、さつき園子といた娘だ。確か、毛利 蘭って言ったっけ。腰まで届くサラサラの長い髪、ぱっちりとしたうるうるの瞳。その上、細い手足、長いまつげ、き

れいな白肌。女の子が欲しいものばかり持つてる、あの娘。あの娘が工藤君の好きな人。羨ましいや。

でも、ちょっと可愛いからってあたしはあきらめない。どうにかして、あの娘を不幸にしてあげるわ。

part 2 (後書き)

美夏ちゃん怖いよー！ー！！自分で書いときながらだけど。

ウチに文才を分けてください (T^T)

parts (前書き)

The へンテコ小説第4話!!!

part 3

蘭は、園子と話していた。(主に新一の話)

園子「本当によくやるわね。お弁当だなんて、さすが奥さま。」

蘭「私は奥さまじゃないし、新一は旦那じゃない!!!」

園子「あらら…、私、旦那だなんて一言も言っていないわよ」

蘭「もう、園子!!!」

園子「アハハハ。あ、私日直だった!!!」

逃げるかのように園子は屋上を出ていった。蘭かため息をついていると、後ろから声をかけられた。

美夏「毛利さん!!!」

蘭「えっ？」

振り返ると美夏が立っていた。

蘭「あ、里山さん。蘭でいいよ。どうしたの？」

美夏「あたしも美夏でいいよ。で、ひとつ質問なんだけど…蘭さんって、工藤君のコト、好きなの？」

美夏が聞くと、蘭はみるみる赤くなっていく。それを見て、美夏は少し怒りを感じた。

蘭「違うわよっ。新一とは只の幼なじみ!!!」

美夏「じゃあ、あたしと工藤君の恋、手伝ってよ。」

蘭「えっ。」

美夏「お願い、どうしても手伝ってほしいの。」

新一と呼んだ蘭に完全な怒りを覚えた美夏は、蘭に恋の援助を頼んだ。蘭は困惑の色を隠せなかった。

part 3 (後書き)

こんな駄文を読んでくれて、ありがとうございます (T-T)

part 4 (前書き)

蘭ちゃん目線です!!!

part 4

美夏「お願い。どうしても手伝ってほしいの。」

美夏ちゃんから発せられた言葉。手伝ってほしい？ムリだよ。私は美夏ちゃんが好きになるずっと前から新一が好きなんだよ？美夏ちゃん、知らないでしょ？

美夏「蘭さん。本当にお願ひ。」

頭を下げる美夏ちゃん。ここまで頼まれたら……って思ってしまう。でも、やっぱり新一は好きだよ。私の中に2人の私が現れて、喧嘩し始めちゃった。

蘭「いいよ。」

思わず言ってしまった。心の喧嘩では、応援しなきゃと思ってる自分が勝つたみたい。それに、新一が幸せになるならね、仕方ないじゃない。

私の言葉に美夏ちゃんは瞳を輝かせた。

美夏「本当に！？嬉しい！！じゃあ、工藤君と喋ったり、一緒に帰ったりしないで！お願い。」

蘭「えっ？」

美夏「当然でしょ？だって、工藤君と他の女子が喋るの、見てて辛いもん。」

今日2度目の衝撃を受けた。ナンテイッタノ？でも、約束しちゃっ

たもんね。美夏ちゃんを手伝うって。

蘭「うん。わかった。」

言ってしまった、私はバカだ。

part 4 (後書き)

投稿遅くなってすみません (T^T)
熱で2日間寝込みまして。口；

次の日から、蘭は新一のことを避けはじめた。登校は一人で、愛妻弁当も作らず、喋りかけられてもすぐにどこかへ行った。しかし、それで新一が納得する訳もなく。

新一「おい、蘭どういふコトだよ!？」

蘭「何が？」

新一「何が？'じゃねえよ。何で俺のコト避けてんだよ。俺、何かわりいことしたか？」

帰ろうと荷物を持ったとき、新一に呼び止められた。ひどく新一は怒っている。しかし、美夏と約束した手前、喋るわけにはいかない。少しの沈黙が二人の間に流れる。

蘭「私、避けてた？偶然だよ。じゃあ用事があるから先帰るね。」

一言だけ告げて、蘭は帰っていく。新一は一人取り残された。一度も後ろを振り向かないまま、蘭は去っていった。

新一「何でだよ...。」

当然の如く、偶然ではないと思ってる新一。気がつけば、蘭は門を出ようとしていた。その姿を見て、新一は昔に戻りたいと素直に思った。他愛のない会話をし、笑いあった日々。それがすべて崩れていった。

新一「くそっ。」

新一の叫び声がむなしく教室に響いた。

part 5 (後書き)

新一ごめんなさい(T|T)貴方が可哀想です。
とかいって面白がってるASUです!!!

誤字脱字の指摘、よろしくお願いいたします(*^_^*)

part 6 (前書き)

美夏ちゃん目線です！！！

一部始終、見させてもらったわよ。教室のとき。蘭さん、とってもいいこよね。工藤君と喋るなって言ったらその日から避けはじめるんだもの。本当、いい気味

美夏「他に何かあるかしら。あの子を痛め付ける方法 あっ、そう
だ。」

いいこと考えた。待っててね、蘭さん。今すぐ、楽しいゲームが始まるから……。

……次の日……

美夏「工藤君、蘭さんと喧嘩してるの？」

新一「ああ、避けられてるみたいだな。」

明らかに工藤君は不機嫌。なら、計画通りに行きそうね。

美夏「じゃあ、ちゃんと話した方がいいよ。蘭さん、落ち込んでるみたいだし。」

新一「でも……。」

美夏「工藤君、カッコ悪いよ、相当。ちゃんと話しなよ。」

新一「……ああ。」

工藤君は立ち上がって、蘭さんの元へ行った。そうして二人で屋上へと行った。もちろん、あたしは尾行してるわよ。計画通りかどうかは、ここから始まるから。

さあ、ゲームの始まりよ。

part 6 (後書き)

美夏ちゃん、怖いです。普通に。さてさて、ゲームとはどんなゲームなのでしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5197y/>

二人の恋

2011年11月22日02時00分発行